

CASBEE® 京都-新築

標準システム 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE京都-新築 (2011年版) | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)第二東旺苑	階数	地上4F, 地下1F
建設地	京都府京都市山科区川田御出町29	構造	S造
用途地域	準工業地域, 準防火地域	平均居住人員	84 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院, 集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年12月 予定	評価の実施日	2013年12月1日
敷地面積	1,924 m ²	作成者	森 勝敏
建築面積	1,237 m ²	確認日	
延床面積	4,390 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

■建設 ■修繕・更新・解体 □運用 □オンサイト □オフサイト

①参照値 100%
②建築物の取組み 92%
③上記+②以外の 92%
④上記+オフサイト手法 92%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
外壁の色彩や敷地内緑化、内装仕上げに重点を置きつつ、周辺地域の日照時間の確保、廃棄物の処理方法の明確化など、周辺環境に注意を払い地域の住環境を壊さないように計画した。また、施設利用者や近隣住民が集まってコミュニケーションがとれる空間を設け、地域密着型の老人福祉施設を目指す。	0	
Q1 室内環境 適切な換気量、空調機器配置を行いシックハウスや室内温度に不快感を感じることのないように心がけた。	Q2 サービス性能 特別老人ホームの個室は17㎡以上の面積を確保し、機能性に配慮した。建物全体では中央部に吹抜を配し、空間の広がりを感じられるよう計画した。また、バリアフリーとし利用者が快適に生活できるように配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 敷地の緑化に努め、敷地内温熱環境の向上に配慮した。また、アメニティ向上に貢献できるように配慮した。
LR1 エネルギー 自然エネルギーの変換利用として太陽光発電設備を設置した。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓採用による、水資源の消費を心がけた。建材には、有害物質を含まないものを使用するよう努める。	LR3 敷地外環境 地表面の緑化や屋上緑化を行い、温熱環境悪化の改善に努めた。また、適切な量の駐車スペースや進入経路を設け、交通負荷の抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される